

報告書名：高齢者の義歯使用と精神・身体機能，栄養状態，生命予後の関係

研究者名：藤本篤士<sup>1)</sup>，井上農夫男<sup>2)</sup>

所 属：<sup>1)</sup>医療法人溪仁会西円山病院歯科診療部

<sup>2)</sup>北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座・高齢者口腔健康管理学分野

## ．目的

高齢者の義歯使用と精神・身体機能，栄養状態，生命予後の関係，さらに生命予後と精神・身体機能，栄養状態などの関係を明らかにする目的で検討を行った．

## ．方法

2001年から2003年の間に医療法人溪仁会西円山病院に入院中で，65歳以上の患者897名(83.69±7.76歳，65～104歳)について，義歯使用状況と口腔内所見および精神・身体機能等の評価調査を行い，その後の予後を観察し，それぞれの関係を解析した．

## ．結果と考察

義歯使用についての解析方法：義歯使用群と不使用群間で各調査項目の統計的有意差の検定した．そして，有意と考えられた要因を従属変数とし，目的変数を義歯使用，不使用としたロジスティック回帰分析を行い，義歯使用に影響を与える要因の検討を行った．

生命予後についての解析方法：各調査項目を指定した群に分類しKaplan-Meier法を用いて，群間での生命予後の統計的有意差を検定した．そして，有意と考えられる要因についてCOX比例ハザードモデルを用いて，生命予後の検討を行った．

これらの解析各々について，65～74歳，75～84歳，85歳以上の年齢群別検討も行った．

## ．結論

1. 高齢者における栄養状態の指標で0あるAlbやBMIは義歯使用状況に影響を及ぼさなかった．
2. 前期高齢者では，義歯使用に影響を与える要因は明らかでなかった．しかし，後期高齢者や超高齢者では精神・身体機能と生活の自立度が影響を及ぼし，とくに超高齢者においては精神機能すなわち痴呆の影響が最も強く現れていた．
3. 高齢者における生命予後に最も強い影響を与えている要因はAlbであった．また年齢が進み85歳以上の超高齢者になるとBMIも要因のひとつとなっていた．
4. 高齢者の生命予後には栄養状態が強く影響していることから，中長期的な視野に立った高齢者の総合栄養ケア(Total Nutrition Care)の重要性が示唆された．その総合栄養ケアの効果を評価する指標としてAlbが有用であると考えられた．